

# 施策分析シート（平成20年度）

No1

<b>施策名</b>	総合的な交通体系の整備	<b>施策No</b>	12-03	<b>部課名</b>	都市整備部都市計画課		
<b>関連部課名</b>							
<b>行政評価</b>	<b>分野</b>	安全安心都市[ ]					
<b>事業体系</b>	<b>政策</b>	利便性の高い都市基盤の整備[12]					
<b>目的</b>	荒川区内の交通利便性の向上と交通弱者（高齢者、障がい者等）の移動手段を確保するとともに、自家用車等の利用抑制を図り環境に配慮したまちづくりを推進するため、公共交通の整備促進を図る。						
<b>指標</b>	<b>施策の成果とする指標名</b>	<b>指標の推移</b>					<b>指標に関する説明</b>
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (28年度)	
	日暮里駅総合改善事業の進捗率	25.5%	46.7%	63.7%	85.4%	100%	整備進捗率（既整備分工事費 / 総事業費） 21年度事業完了予定
	日暮里駅周辺地区交通バリアフリー進捗率	27.5%	50%	69.5%	74.5%	100%	工事進捗率（【道路】整備済延長 / 必要整備延長と【施設】整備箇所数 / 必要整備箇所数の平均） 22年中に事業完了予定
<b>現状と課題（指標分析）</b>	平成17年8月につくばエクスプレスが開業し、20年3月には日暮里・舎人ライナーが開業するなど、これまでのJR線、京成線、地下鉄、都電荒川線と併せ、区内の鉄道交通の充実が図られた。さらに、平成22年度には、日暮里・成田空港間を36分で結ぶ、成田新高速鉄道が開業する予定であり、日暮里駅の交通結節点としての役割が飛躍的に高まる。 年々、鉄道駅構内のバリアフリー化は進んでいるが、駅周辺のバリアフリー化は十分でない状況にある。 区内の鉄軌道の多くは南北に走っており、東西交通は都電荒川線のみで、南千住駅東側への交通手段が少ない状況である。このような中で、コミュニティバスは利用者からの評判も良好であり、20年度に汐入地区への導入を検討している。 区内の交通体系整備は進んでいるが、環境交通対策への取組が不十分である。						
<b>今後の方向性</b>	《今までの成果及び指標分析を踏まえて》  成田新高速鉄道が平成22年度に開業を迎えられるよう、円滑な工事の進捗を図り、適切な進行管理を行う。 日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想に掲げた事業を各事業者確実に実施させるための進行管理を行うとともに、他の鉄道駅のバリアフリー基本構想策定を検討する。 区民の利便性向上や自家用車等の利用抑制のため、自主運行によるコミュニティバス路線拡大の可能性について検討する。						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区内の交通体系の充実、まちの活性化に寄与するものであり、より利便性を高めるために交通網の整備を進めていく必要がある。

